

## 景観と風景を活かし、育てるまちへ

名城大学都市情報学部  
海道清信  
kaidou@meijo-u.ac.jp

おはようございます。

東浦町の景観について、お話させていただきます。  
テーマは、「景観と風景を活かし、育てるまちへ」です。

まず、景観と風景の違いについてですが、「景観」とは、建物があるような身近なもの、「風景」とは、自然のあるような広い範囲のものと区別しています。

活かし、育てるということで、今あるいいところは保存してさらによくする、不足しているものがあれば創っていくということを行っていきたいと思っています。  
全体としては、「変えていく」のではなくじっくり時間をかけて「育てていく」まちづくりがしていけたらと思っています。

## 個性ある都市を育てるために

現代都市は、巨大な建設投資と技術を動員して、効率性、快適性をめざして開発整備されてきた。そのために、生み出された都市空間は個性のないものになりがちである。

どうして、効率的で画一的な「ファスト風土」ではいけないのでしょうか。

それは、都市や地域は、利便性や効率性だけでは評価できない固有の価値を持っているから。

住民、市民は自分たちが住む都市の独自の価値、共感できる風景を求めている。

土地や住宅に余裕ができてきた時代、住むところ・住み方を選ぶことができる時代に、選ばれる地域であるためにも、地域の個性や魅力が重要となってくる。

2

このまち、この地域にしかない特徴のあるまちを育てるうえで、景観づくりや風景づくりは重要なものです。

まちなみの成長中は、個性のないまちがつくりあげられていきましたが、発展の終わった成熟中のまちでは、他と違う独自性があると思います。その独自性は、そこに住む住民の誇りや、外から見られたときの評価、観光につながっていくかもしれません。

## 景観まちづくりとは

良い景観や風景を創造したり、維持したり、守り、活用し、育てることをテーマとしたまちづくり。

直接的なねらい：

- ① 住民、コミュニティ意識向上
- ② アメニティ(生活環境、魅力)改善
- ③ 経済的効果

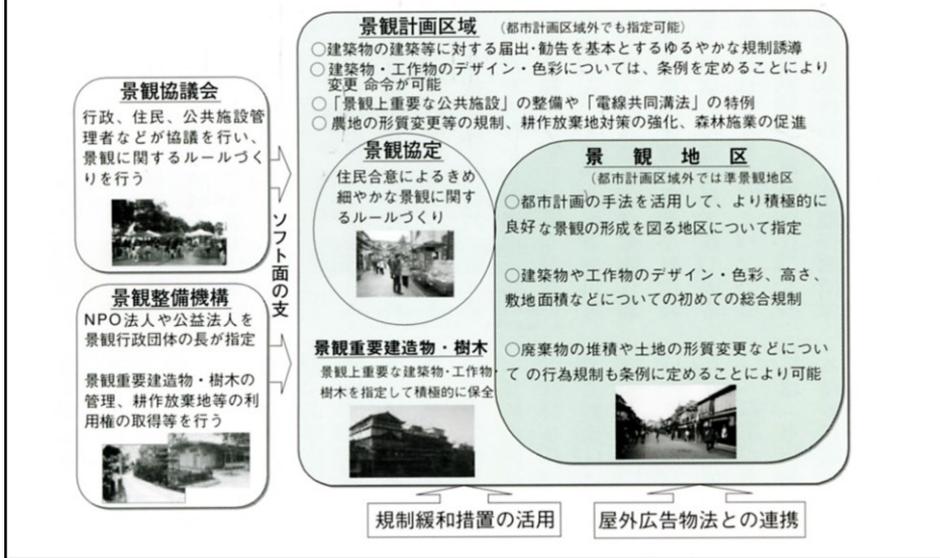
3

景観まちづくりの効果は、

- ①住民、コミュニティ意識向上：住民が誇りや愛着をもって住むことができる
  - ②アメニティ(生活環境、魅力)改善：暮らしやすいまちをつくる
  - ③経済的効果：まち全体のイメージアップ、このまちに住みたい人が増え、人口増加につながる
- このような点であると思っています。

# 景観法 平成16年の仕組み

図2 景観法に基づく規制誘導手法の仕組み



景観法は、国の法律として制定されました。

それ以前は、京都や金沢など特徴のある自治体が条例を独自でつくり、景観づくりをしていました。

その流れが、それ以外の自治体にも広がっていきました。

景観法の中身としては、景観地区の指定、景観協定をつくる、景観を悪くするものを抑制し、よいところは伸ばすというものです。

建物や樹木も景観法の対象になったりと、範囲は幅広いです。

## 愛知県内の景観条例、景観計画策定状況

自治体	景観条例	策定年度
名古屋市	名古屋市都市景観条例	昭和59
豊橋市	豊橋市まちづくり景観条例	平成4
春日井市	春日井市都市景観条例	平成6
一宮市	一宮市都市景観条例	平成7
小牧市	小牧市都市景観条例	平成13
豊田市	豊田市景観条例	平成20
犬山市	犬山市景観条例	平成20
瀬戸市	瀬戸市景観条例	平成22
半田市	半田市ふるさと景観条例	平成22
常滑市	常滑市やきもの散歩道地区景観条例	平成22
みよし市	水と緑の風景を守り育てる条例	平成23
岡崎市	岡崎市水と緑・歴史と文化のまちづくり条例	平成24

景観法 平成16年  
景観法以前は自治体の独自  
条例による

**東浦町**  
景観計画策定 平成28年度  
景観条例施行 平成29年度

平成27年4月1日現在

愛知県HPより

愛知県内では、名古屋市が一番初めに、都市景観条例をつくりました。  
その後、大きな市町が続きましたが、東浦町は、町の中でも唯一景観条例を策定  
しています。

## 東浦町での景観への取り組みの経緯

- 平成24年度 景観法による景観形成団体
- 平成25年度 景観計画策定のワークショップ6回。町民アンケート調査368/1500人
- 平成26年度 景観計画検討委員会6回。ぶどう畑景観意見交換会。
- 平成27年度 景観計画検討委員会6回、景観シンポジウム、景観フォト&エッセイコンテスト
- 平成28年度 景観計画策定、景観形成ガイドブック策定、景観条例制定、景観まちづくり委員会、景観絵画コンクール
- 平成29年度 景観条例施行、景観審議会設置、景観アドバイザー運用。景観まちづくり委員会。景観絵画コンクール。景観共感プロジェクト。
- 平成30年度 景観まちづくり委員会、景観絵画コンクール、景観共感プロジェクト(明德寺川地区の眺望を開く樹木伐採)、重点候補地区(明德寺川)ワークショップ、景観をテーマとする住民懇談会(各地区)、ぶどう畑景観意見交換会

6

東浦町では、まち全体が景観地区となっています。

- ・平成24年度には、町が景観法による景観形成団体に認定されました。
- ・平成25年度には、町民ワークショップを行い、町民の意見を集約していきました。
- ・平成26年度・27年度には、景観計画検討委員会、ぶどう畑景観意見交換会、景観シンポジウム、景観フォト&エッセイコンテストなどを行ってきました。
- ・平成29年度には、景観条例施行が施行され、アドバイザーの方の意見をお聞きしながら、運用をしてきました。

開発者が開発・建築を行う場合、町に届け出をいただき、それがルールに沿っているか確認し、問題がある場合は、開発者と話し合い、修正していただくというものです。

想像以上に件数があったため、大変ではありましたが、それにより知識や経験を積み重ねてきました。

すぐに景観がよくなるわけではありませんが、少しずつ効果がでてきていると思います。

また、「景観共感プロジェクト」というものも行いました。

「景観」は、行政が住民におしつけるものではありません。

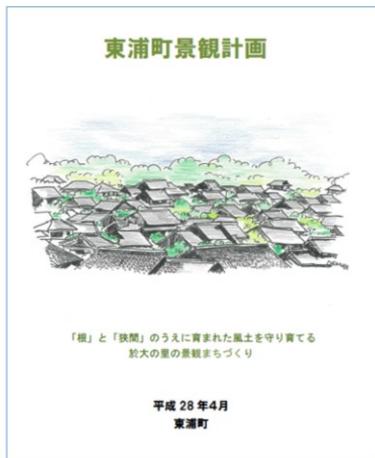
住民や地権者、事業者の方が、自分たちのまちを大事にしようと思う気持ちを培っていかねばなりません。

景観が大事だということを、共感してもらえるような取り込みをしようということが、

景観計画にも盛り込まれています。

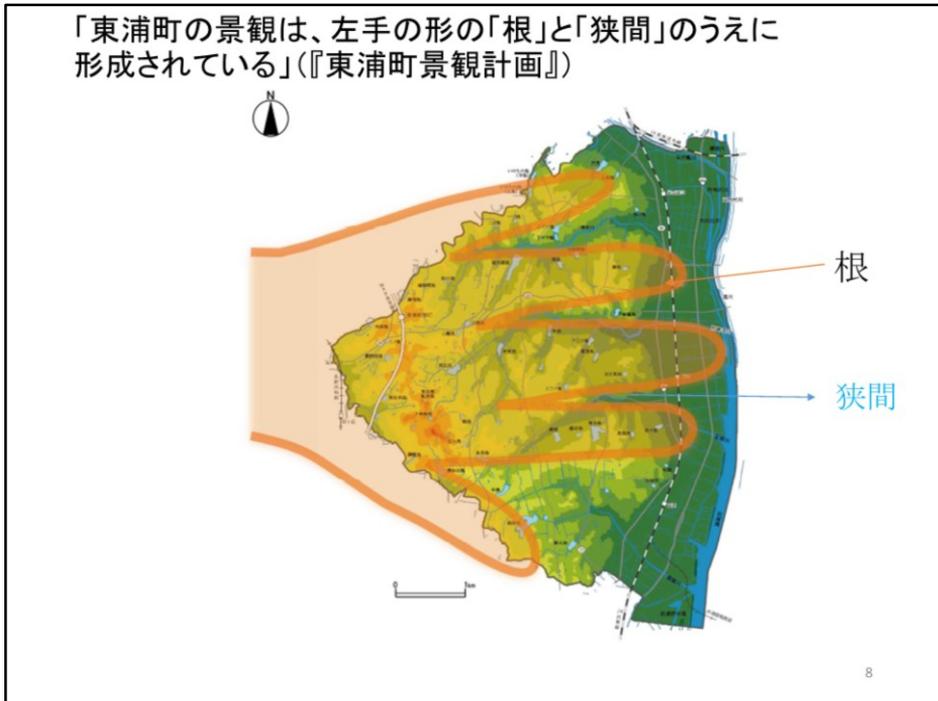
平成30年度には、景観まちづくり委員会、景観絵画コンクール、景観共感プロジェクト、ワークショップ、景観をテーマとする住民懇談会(各地区)、ぶどう畑景観意見交換会を計画しています。

## 東浦町の景観の特徴と景観まちづくり



7

これらは、HPから見るができますので、参考にしてください。  
ガイドブックには、大規模開発に関わる、建物の色、高さの規制などが書かれています。



東浦町の景観の特徴は、左手を重ねてみると、うまく指が尾根と重なるところです。

ここにまちなみがあります。

また、指と指の間が、狭間になります。

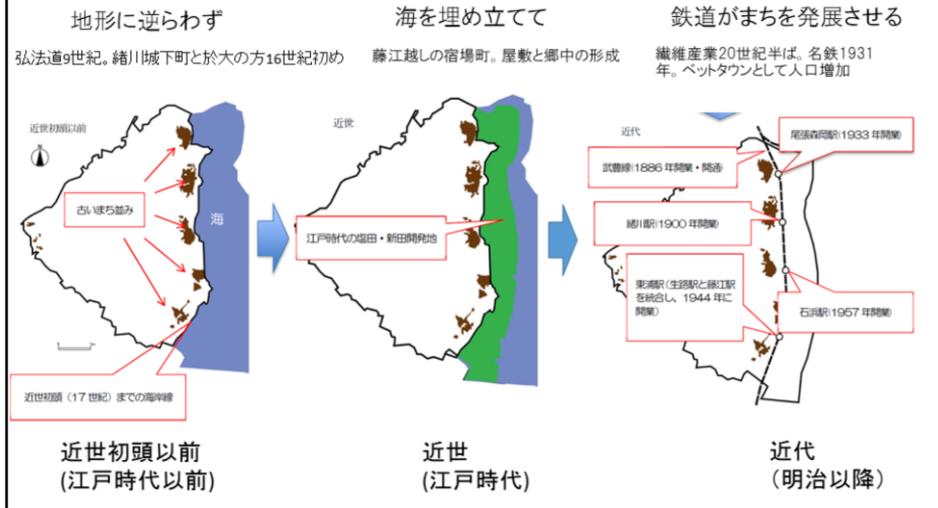
「根」と「狭間」の景観は、東浦町の景観をつくる土台となります。

地形は、まちの構造を理解するのに大切なものです。

東浦町の場合は、その構造が分かりやすい形になっています。

このように、「根」と「狭間」の景観は、東浦町の最も基本的な構造であると言えます。

# 東浦のまちの形成



東浦町のまちの発展について説明します。  
江戸時代以前では、古いまちなみが尾根の先の方に形成されていきました。  
近世になると、海を埋め立てて田ができました。  
明治時代以降は、塩田、鉄道ができ、南北につながっていきました。  
東浦町は、500年位の歴史のある、伝統的なまちといえます。

景観まちづくりとは  
「東浦町景観計画」による

「この場所の風景がいいな、と  
いう共感を広げ、人々が生き  
生きと暮らせる居場所をつくり  
育てるのが、景観まちづくりで  
ある」

10

このスライドは、東浦町景観計画の中から引用したものです。

## 景観、風景、風土 「東浦町景観計画」より

「景観」が人々の暮らしぶりとなって定着すると、「風景」となり、さらに歴史や文化といえる程度に根付くと、「風土」となる。

11

「景観」がつくられるには約10年と短期間、「風景」は100年単位、「風土」は数100年単位でできるものと、専門的には言われています。

## 「東浦らしい景観」とはなにか

東浦の個性を示す景観は、川筋（狭間、はざま）とそれを挟む丘（根、ね）の起伏に富んだ地形のうえに、人々の生活が積み重ねられて形成されている。

12

まちのルーツを探るには、地形が大事になります。  
その上に、住民の生活が積み重ねられてまちができ、町と発展していきます。  
東浦町の場合は、この流れが明確であるのが特徴です。

# 景観に対する町民の意見

町民アンケート調査結果から。成25年8-9月

『東浦町景観計画』より

〈アンケートの結果の概要と計画の反映に向けた考察〉

結果の概要・ポイント

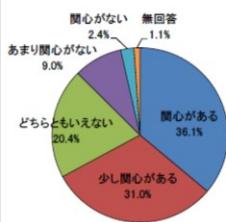
考察

○景観へ関心をもつ住民は多くなっているが、30～40歳代、男性の関心はやや低くなっている。	⇒	■30～40歳代、男性を中心に、景観への関心をさらに高める取組を検討する必要がある。
○景観への満足度はあまり高いとはいえず、「どちらともいえない」の回答が最も多くなっている。	⇒	■住民に景観のイメージが理解されていないことが要因と想定されることから、景観づくりを理解し、東浦町の景観像の共通認識を醸成する取組を検討する必要がある。
○10年前に比べ景観がよくなったとする意見も多くなっている。	⇒	■古くからの資源の保全だけでなく、まちづくりにおける新しい景観づくりも必要となっている。
○重要な景観資源としては、「田園」「山林や里山」「大きな公園」「歴史的資源」が多くなっている。	⇒	■里山や田園風景などの自然資源、社寺や町並みなどの歴史資源の保全・活用を景観づくりの中心に位置づける必要がある。
○お気に入りの風景としては、田畑、田園風景、里山の他に、ぶどう畑や果樹園をあげる意見が多くなっている。	⇒	■ぶどう畑は東浦町の特徴的な景観として、保全・活用していく必要がある。
○丘陵地の高台や斜面の上からぶどう畑や旧道沿いの町並みや対岸の刈谷方向などの眺望をお気に入りの風景としてあげる意見も多くなっている。	⇒	■眺望が楽しめる場所（視点場）を整えることも必要である。
○大切にすべき景観として「緑豊かな自然を感じる景観」の他に「毎日見てホッとする景観」も多くなっている。	⇒	■名所的景観だけでなく、各地区の住宅地の周りの身近な生活景観の保全や創造も必要となっている。

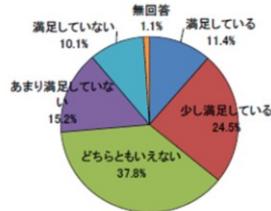
景観計画策定にあたり、アンケート調査を行いました。

# 景観に対する町民の意見

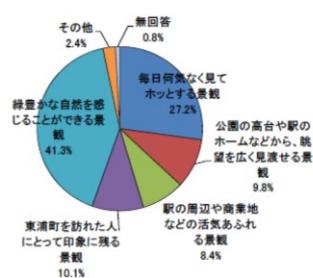
町民アンケート調査結果から。成25年8-9月



景観への関心  
3分の2は「ある」



景観の現状の満足度  
「満足」は3分の1



どのような景観を大事にすべきか  
1 緑豊かな自然  
2 ほっとする景観  
3 町外の人にも印象が残る  
4 眺望を広く見渡せる景観

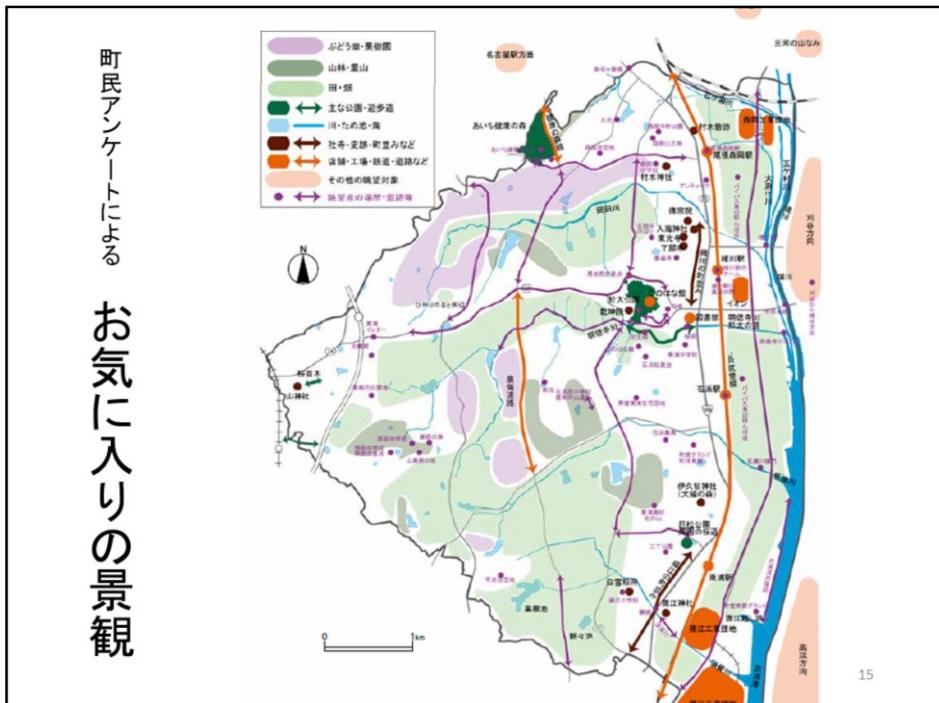
14

注目すべき内容は、3分の2の方は、景観に関心があるが、現状の景観に満足しているのは、全体の3分の1の方しか満たないということです。

このギャップを埋め、景観への関心も高く、満足度も高いという状態にするのが、景観まちづくりだと思っています。

東浦町は、先ほど述べたように、「根」と「狭間」の上に形成されています。

「どのような景観を大事にすべきか」の結果から、町民の方も「景観」や「風景」としてこの「根」と「狭間」の特徴を意識しているのだと思います。



この地図からは、町内全域にわたって、いたるところに特徴のある景観資源や自慢できる景観があるということが分かります。

# 東浦の景観構成要素

景観要素（景観計画のテーマ区分）		対象エリア・地点	昨年度中間報告における要素区分	
「場」の景観	まちとみちの景観	「屋敷」と「郷中」の景観	市街化区域のうち、近げい町から形成された市街地のエリア（弘法道などの歴史的な道路軸を含む）	歴史景観
		新しいまち並みの景観	上記以外の市街化区域（主要幹線道路沿道などの交通軸等を含む）	工業地景観 商業地景観 沿道景観 住宅地景観
	農と緑と水の景観	ぶどう畑のある田園景観	丘陵部にひろがるぶどう畑を中心とした農地のエリア	自然・田園景観
		「根」と「狭間」の景観	東西方向に流れる銀川とそれに沿った農地、里山が一体となった軸状のエリア	
	岸辺の景観	衣浦港、柳川沿いの臨海に沿ったエリア		
「広がり」をもった景観		それぞれの「場」のなかにおいて、上記の各景観要素のなかで特に眺望景観が良好な代表的スポット	眺望景観	
「点景」の景観		それぞれの「場」の景観を構成する、建造物、工作物、碑、樹木などの「点」的な景観要素	—	

## 1. 「場」の景観：

・まちとみちの景観—「屋敷」と「郷中」、新しいまち並み

「屋敷」(緒川城下町)  
「郷中」(森岡、石浜、生路、藤江)

・農と緑と水の景観—ぶどう畑のある田園景観、「根」と「狭間」の景観

「ぶどう畑」(森岡)  
「根と狭間」(明德寺川地区)

・岸辺の景観

## 2. 「広がり」を持った景観

## 3. 「点景」の景観

今までのまとめとして、

1. 「場」の景観
  2. 「広がり」を持った景観
  3. 「点景」の景観
- の3つの構成にわけました。

景観計画では、『1. 「場」の景観』を最も重要視しています。

その中で、4つの重点区域候補地区を定めました。

- ・「屋敷」(緒川城下町)
- ・「郷中」(森岡、石浜、生路、藤江)
- ・「ぶどう畑」(森岡)
- ・「根と狭間」(明德寺川地区)

これらの地区は、よりきめ細やかに規制を行ったり、景観を育てていきたいと思っています。

## 第6章 重点区域の景観まちづくりの方針

### 6-1 重点区域の考え方

#### ■「東浦らしさ」のある場所

- ・東浦のルーツとなる古いまち並み【屋敷と郷中のまち並み】
- ・歴史遺産（文化財）とその周辺の景観【屋敷と郷中のまち並み】
- ・町を代表する（した）地場産業の生産の場【森岡のぶどう畑】【生路ののこぎり屋根】

#### ■住民が集える場所

- ・町の中央を流れる水辺と緑の「ほっとする場所」【明徳寺川の根と狭間】
- ・東浦のルーツとなるかつての城下町・生活の中心であった商店街のまち並み【緒川の屋敷のまち並み】

#### ■放置すれば失われていくもの

- ・伝統的なスタイルの民家、町家【屋敷と郷中のまち並み】
- ・市街地のなかの緑【屋敷と郷中のまち並み】
- ・まちなかのコミュニティ、絆【屋敷と郷中のまち並み】
- ・農地と農作業の風景【森岡のぶどう畑】【明徳寺川の根と狭間】

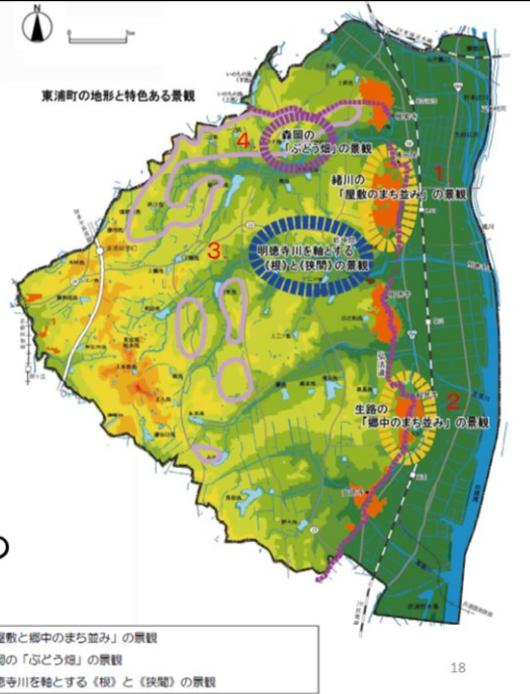
17

重点区域候補地区は、これらの理由から選定しました。  
現在は、景観まちづくり委員会の中で、話し合いを進めています。

## 景観重点区域 の候補地区

### 重点区域の選定の考え方

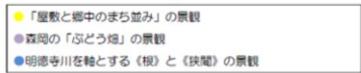
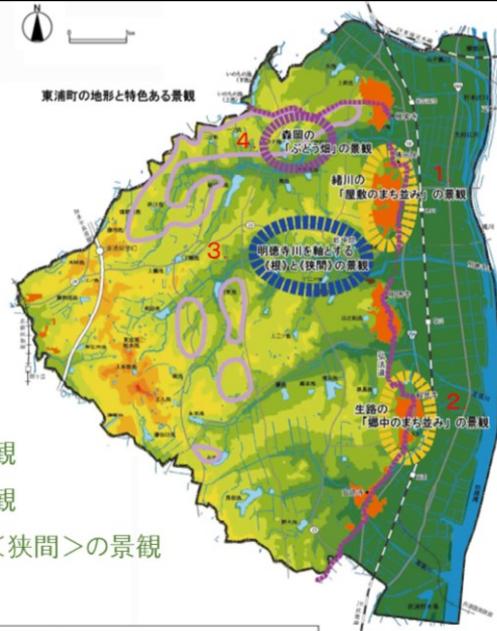
「東浦らしさ」のある場所  
住民が集える場所  
放置すれば失われていくもの



## 景観重点区域の 候補地区

### 4地区

1. 緒川の「屋敷のまち並み」の景観
2. 生路の「郷中のまち並み」の景観
3. 明徳寺川を軸とする〈根〉と〈狭間〉の景観
4. 森岡の「ぶどう畑」の景観



# 緒川地区の〈屋敷〉と〈郷中〉の景観

## 景観特性と課題

### ■景観特性・景観資源

- 細く曲がりくねる坂道、階段のある路地空間（城下町の町割）、その沿道の黒壁の家並みや社寺境内地の魅力
- 緒川城址、傳宗院（八幡札所）、入海神社、東光寺、了願寺、越境寺、善導寺、日高邸をはじめ古い建築物
- 斜面の樹林、社寺境内林の緑
- 黒い板壁が地域の色

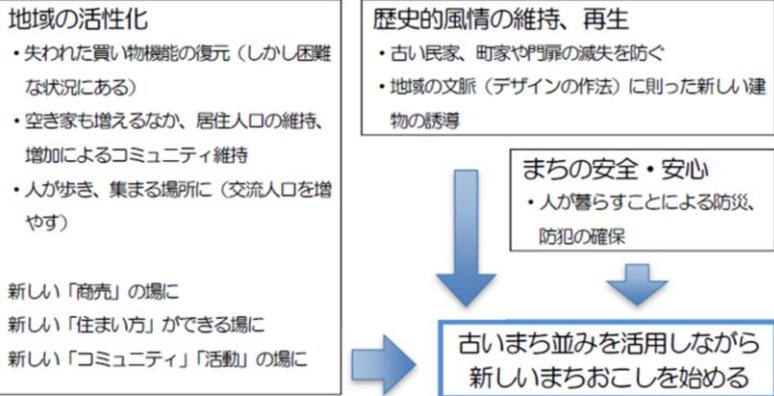
### ■現状と問題点・課題

- 古い家屋が急速に失われつつある
- 古い家並みと調和しない新しい建築物が増えつつある。空き家も増加している。
- 弘法道（入海通り）沿いのかつての生活中心（商店街）の活力の喪失

# 緒川地区の〈屋敷〉と〈郷中〉の景観

## 課題とまちづくりの方向

『東浦町景観計画』より



21

今後、古いまちなみを活用しながら、新しいまちおこしをはじめるといふ提案をしていく予定です。

## 緒川地区の屋敷と郷中の景観 調査(海道研究室、米澤研究室)

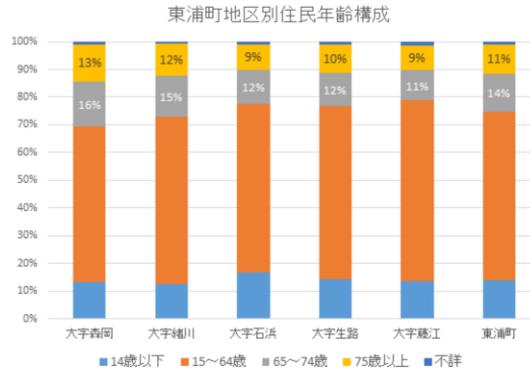


22

現在、名城大学の学生や地域と連携しながら、調査をはじめるところです。  
ふるさとガイドボランティアの方にもご協力いただいています。

## 住民構成 国勢調査(2015年)の解析

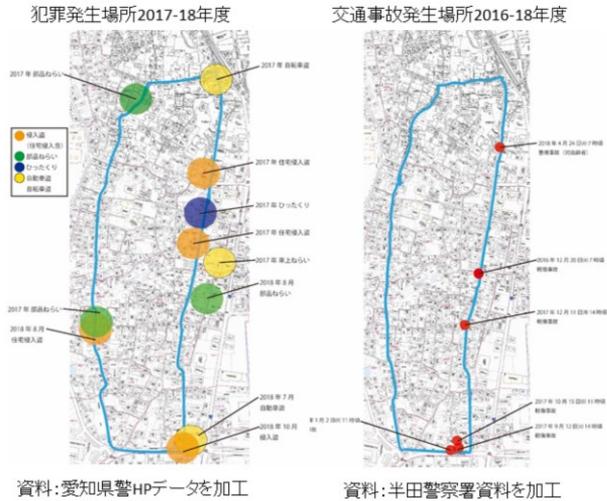
東浦町の高齢化率  
(2015年国勢調査)  
は、24.4%。  
町内5地区別では、  
森岡が29%でもっ  
とも高く、緒川は  
27%と高齢者割合  
が高い。  
石浜は21%と高齢  
化率は低い。



中間報告をまとめましたので、発表いたします。

## 交通事故と犯罪マップ (緒川地区景観重点候補地区)

犯罪、交通事故ともに、幹線道路沿いで発生している。  
路地が多い緒川地区内は犯罪、交通事故ともに少ない。  
交通量が少なく、外部からはわかりにくい。  
コミュニティが濃厚で、景観的に優れた地区内は安全性も高い。  
道路の拡幅には、安全の面では、慎重になるべきだ。

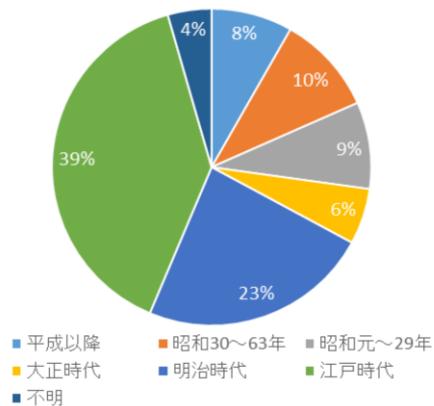


景観と生活環境に関する緒川地区(景観重点候補地区)  
住民アンケート調査結果(中間報告):  
ご先祖や自分が緒川に住み始めた時期

緒川地区(景観重点候補地区)住  
民アンケート調査:2018年11月  
約450戸に直接配布、有効回収  
153票(コミュニティセンター持参)。  
ただし、各戸2票を同封した。

回答者の先祖や自身  
が緒川地区に住み始  
めたのは、39%が江戸  
時代、23%が明治時  
代、大正時代が6%と、  
この地域に長期にわ  
たって、居住してきた住  
民が多い。

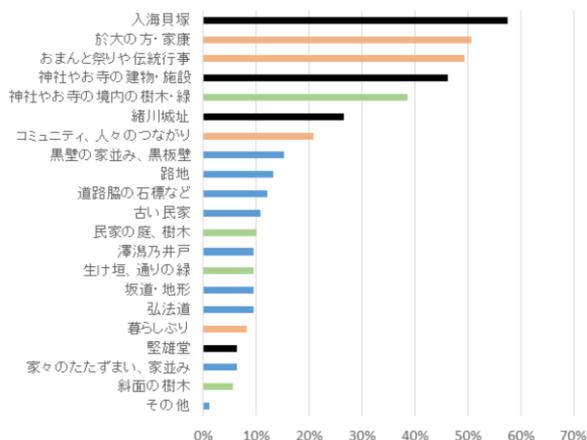
先祖や自分が緒川に住み始めた時期



景観と生活環境に関する緒川地区(景観重点候補地区)  
 住民アンケート調査結果(中間報告):  
 景観や歴史/文化資源で特に優れているとこと

住民にとって、地域の景観や歴史/文化資源で優れていると思っているのは、入会貝塚がもっとも高い。於大の方/家康とおまん祭りなどが次いで高い。  
 黒板塀、路地、坂道/地形、古い民家、家並みなど、直接景観に結びつく景観要素への評価は、10～20%程度で、神社や緒川城址よりも低い。

景観や歴史/文化資源で特に優れているとこと

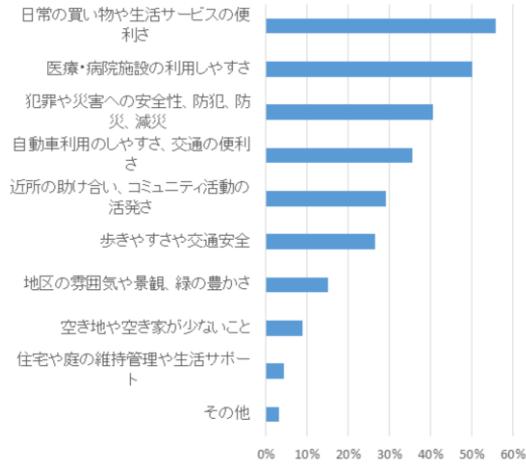


景観と生活環境に関する緒川地区(景観重点候補地区)  
 住民アンケート調査結果(中間報告):  
 住み続けるために大切と思うこと

緒川地区にこれからも住み続けるために、大切なことは、日常の買い物など生活サービスの利便性や医療施設の利用のしやすさが約50%と高い。さらに防犯や防災などの生活の安全性が40%の住民が重要と考えている。

地区の雰囲気や景観については、約15%とこれらの必須の項目から比べれば、高くない。

住み続けるために大切と思うこと



## 緒川地区の屋敷と郷中の景観



28

緒川の屋敷と郷中の景観では、これらの黒板塀の景観が、特徴的です。

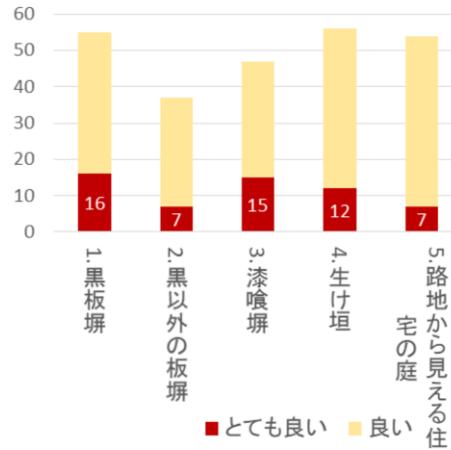
景観と生活環境に関する緒川地区(景観重点候補地区)  
 住民アンケート調査結果(中間報告):  
 塀/生け垣の景観評価

緒川地区の景観の特徴のひとつは、黒板塀、黒壁である。

住民自身の評価では、50%以上が黒板塀を「とても良い」「良い」と評価しているが、「とても良い」は16%と、意外に少ない。

生け垣と路地から見える住宅の庭は、黒板塀と同じくらい、良いと評価されている。

塀/生け垣の景観評価



# 徳寺川を軸とする〈根〉と〈狭間〉の景観

## 景観特性と課題

『東浦町景観計画』より

### ■景観特性・景観資源

- ・明徳寺川は東浦町の中央部を流れ、南北地域の境界となる「根」と「狭間」の軸
- ・河川の水辺とその両側の農地、斜面樹林に挟まれたのどかな里地（里山・里川）の田園景観は、ある人にとっては広がりのある景観であり、またある人にとっては囲まれた落ち着いた景観であり、どちらにとっても「穏やか」とする景観である
- ・於大まつりの行列が練り歩く河川沿いの桜並木（於大のみち）
- ・中央図書館をはじめとする文化施設ゾーン、於大公園、於大の方ゆかりの乾坤院、自然環境学習の森など、人の集まる施設を結ぶ軸、並木道

### ■現状と問題点・課題

- ・河川沿いの小規模農地の保全、斜面樹林地の荒廃（竹やぶ化）の防止
- ・住民が水辺の自然環境に触れて親しむ場の充実
- ・明徳寺川と平行する県道沿道の建築物、構造物の景観コントロール



# 明德寺川の 景観構造の 特徴

●<sup>まろらうたぐすい</sup>蔵風得水型景観（背後に山を背負い左右は丘陵に限られ、前方にのみ開いている山の辺の景観）の保全

蔵風得水型空間の構造と構成要素

-  境界：山、丘陵
-  境界：池、川、海
-  領域：平地
-  方向：地表面の傾斜
-  方向：東西南北



出典：日本の景観（樋口忠彦）



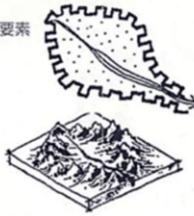
蔵風得水型景観

## 秋津洲やまと型景観

●<sup>あきつしま</sup>秋津洲やまと型景観（四周を青垣山がとり囲み、そのうち清流の流れる明朗広潤な平地を持つ盆地の景観）の保全

秋津洲やまと空間の構造と構成要素

-  境界：山
-  境界、方向：川
-  領域：平地



出典：日本の景観（樋口忠彦）



# 明德寺川地区の景観・まちづくりへの意見： 明德寺川を守る会とのワークショップ2018年11月29日

グループ1



## 良い・好きな景観

- 水田が美しい
- 眺望が良い
- 生きもの桜がきれい
- 於大公園の散策
- 川の水(流れが見える)
- 川の堤防で安全

## 悪い・直したい景観

- 川の中・法面のゴミ
- 桜の管理
- ボランティア活動とのつながり
- 川周辺の建物
- 車の通りが多い
- 生きもの(巣がない)

## 明德寺川地区の景観・まちづくりへの意見： 明德寺川を守る会とのワークショップ2018年11月29日

グループ2



### 良い・好きな景観

春の桜  
秋の花  
スイセン  
生きもの(かわせみ、ウ、カモ、サギ、ホタル、タンポポ)  
人々(歩いている、風景)  
散歩道  
美化  
於大公園

### 悪い・直したい景観

花  
スイセン  
道路の沿道  
管理不足  
動物(犬や猫ふん)  
工作物  
歴史(由来を知らない人が多い)  
施設  
交通(交通渋滞)  
美化

33

これらの結果をふまえて、景観計画に反映していきたいと思っています。

# 明德寺川を軸とする〈根〉と〈狭間〉の景観

## 景観まちづくりのテーマ/方向

『東浦町景観計画』より

### ■景観まちづくりのテーマ・方向性

#### 於大まつりが映える水辺と緑の景観まちづくり

(自然環境と文化に触れる川づくり・道づくり)

- ほっとする自然景観を美しく守る
- 家族連れが楽しく散歩できる里川、里山に



# 明德寺川を軸とする〈根〉と〈狭間〉の景観

## 施策の案

『東浦町景観計画』より

### ■施策の案

#### 【屋外広告物について】

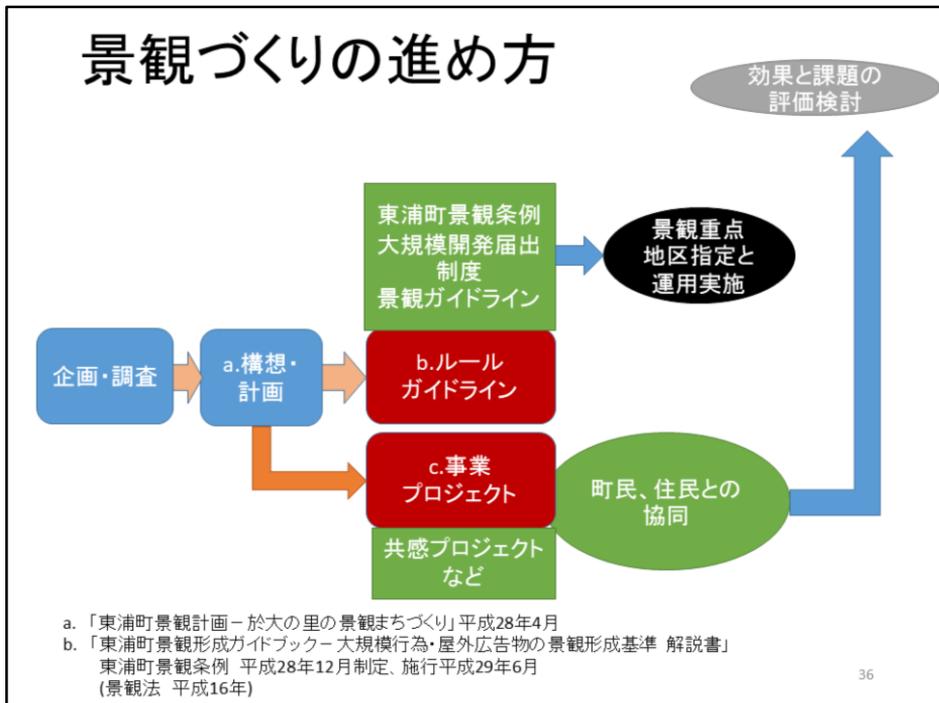
- ・屋外広告物の規制などによる川沿いの景観保全（都市計画道路沿道における長期的な景観コントロールも含む）

#### 【建築物、倉庫、門扉などの工作物について】

- ・明德寺川の堤防道路から見える範囲における建築物、工作物のデザインルールづくり（高さ、色彩、屋根形状、素材、緑化など）

#### 【農地・緑の保全について】

- ・小規模農地の保全や耕作放棄地対策（景観作物の栽培など）
- ・里山保全、竹やぶ化防止のための維持管理



今後、いろいろな形でプロジェクトを行ったり、みなさんの共感や理解が深まるような取り組みを行っていきたいと思っています。全体としては、住民、行政、事業者の方、地権者の方、ボランティアの方との共同で行っていきます。

## まとめ

景観と風景を活かし、育てるまちへ



まとめとしまして、東浦町のもっている独特の歴史と自然を活かし、また、住民のみなさんの生活を踏まえながら、景観や景色を高めていけるように、期待しております。

ご清聴ありがとうございました。